

課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業（実社会対応プログラム）
公募型研究テーマ 研究概要

課題（研究領域）

観光の人文学・社会科学的深化による地域力の創出

研究テーマ名

民間所蔵文化財の資源化・流通による学術観光創成の実証的研究

責任機関

東京芸術大学

研究実施期間

平成25年10月～平成27年9月

研究プロジェクトチームの体制

氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者 安藤 美奈	東京芸術大学 美術学部 講師
分担者 美山 良夫	一般社団法人芸術資源マネジメント研究所代表理事、慶應義塾大学名誉教授
高見 千恵子	一般社団法人芸術資源マネジメント研究所代表理事
中橋 まどか	株式会社JTBコミュニケーションズ
推名 慎一	公益財団法人山形県生涯学習文化財団
加藤 志保	株式会社コネット東京
谷川 真実子	公益財団法人東京都歴史文化財団
深田 万有季	独立行政法人日本芸術文化振興会
安藤 篤好	箱根旅館協同組合会員、小田原箱根商工会議所会員

配分（予定）額

（単位：円）

平成25年度	平成26年度	平成27年度
717,200	4,946,600	2,708,200

※平成26年度・27年度については予定額

研究目的の概要

近年、日本では、様々な分野のアートを活用したイベントが盛んに開催されている。こうしたイベントは、地域経済に貢献する観光資源としても注目され、多くの都市や地域で“祝祭化（Festivalization）”の期待が高まっているが、各地で多数開催されることにより、結果として同類の作品やパフォーマンスに集約され、イベントの非日常性が希薄化する傾向が見受けられるのも事実である。今後は開催する地域に立脚した独自性を含め、イベント自体の明確な差別化が求められると考えられる。学術がこうした実社会で進行する問題に対して、どのように貢献することができるのか。現在のアート・イベントは、外部から最新のアートを持ちこみ、地域の環境と対比する手法が主流となっているが、他の地域との差別化を図るには、場の記憶、地域の歴史の再評価が必要である。地域住民を含めたイベントの参加者に、学術的な視点で評価、整備された場の記憶、地域の歴史を提示し、観光行動を起動させることが、外部からの革新性ととともに、アート・イベントを継続させ、さらに活性化させる要素として必要であると考えられる。

以上のような背景から本研究では、地域で公有化されずに継承されてきた歴史、芸術文化を発掘、再評価することを提案する。研究対象の一つとして100年以上の歴史を有する日本の宿泊施設、いわゆる老舗旅館やホテルが考えられるが、本研究は、老舗旅館やホテルの公有化されずに継承してきた歴史的、芸術文化的資料（以下、文化財）を、学術的に再評価して芸術文化及び観光資源化し、資源を流通させることにより、観光業者との協働、博物館やマスメディアとの協調を探究しつつ、継承してきた文化財をターゲットとする観光行動の創成をめざした実証研究である。また、本研究はアート・マネジメントの視点に立ち、資源化プロセスと流通マネジメントを示すことによって、業態の拡大に主眼をおいてきた観光事業の観念や枠にとらわれない、学術の立場からの観光行動の拡充深化を目指すものである。

研究計画の概要

本研究では、研究対象として、経済・行政・政治などの面で歴史的に地域に貢献してきた民間事業者の、公有化されずに伝承されてきた文化財を取り上げる。その代表的な例として、日本の歴史的な宿泊施設いわゆる老舗旅館、ホテルを中心に事例を収集し、芸術文化資源化の検討を行う。江戸や明治期から現代に続く旅館、ホテルは、地域の歴史と共にあり、旅行という観光行動には欠かせない、非日常を演出する芸術文化装置の一つである。またこれら施設は、地域の歴史資料だけでなく、投宿した文化人、政財界の重鎮など様々な文人墨客との交流を通じた芸術文化資源としてふさわしい文化財を多数保有している。こうした文化財は公有化されずに受け継がれてきたが、地方経済の低迷、多発し甚大化する自然災害とその対策など、施設は事業の継承、継続に、多くの問題、困難を抱えており、デジタル化された所蔵目録などもない所蔵文化財は、散逸、消失の危険性が高い。そこで本研究では、こうした文化財に、学術的な検討を加えて芸術文化資源化し流通させることにより、地域の観光資源としてその関心と役割を再評価する。

研究方法は、事例の収集、検討考察を行う理論的研究プログラムと、実際の資源化プロセスと流通マネジメントを行う、資源化及び流通プログラムの2つのプログラムから構成される。

本研究は、地域の「祝祭化」への期待と、差別化の問題、地域力の創出という課題に対して、地域で公有化されずに継承されてきた民間の文化財を、アート・マネジメントと観光の視点から発掘、再評価することを提案し、学術観光の創成を目指すものである。また本研究により、アート・マネジメントと観光学、文化資源学、文化財保存学など、分野を横断した学術の連携が生まれ、芸術文化資源と観光の関係性について、一層の理解の促進と研究の深化が期されるものである。